

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足

②1~4号機タンク貯蔵量

・淡水化装置による処理により、RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
・蒸発濃縮装置は全台停止中

③5, 6号機滞留水貯蔵量

・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④廃棄物発生量

・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約1,320 m ³	—※7
2号機	約3,360 m ³	T.P.-1,288
3号機	約2,050 m ³	T.P.-1,637
4号機	約10 m ³	T.P.-1,479以下
合計	約6,740 m ³	

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約5,610 m ³	T.P.-277
高温焼却炉建屋	約3,140 m ³	T.P.346
合計	約8,750 m ³	

(合計):-1050[m³/4週](合計):+900[m³/週]

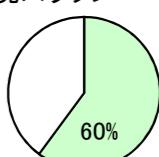
(合計):-470[m³/4週](合計):-20[m³/週]

	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	952 m ³	1,200 m ³
SPT(B)	2,322 m ³	3,100 m ³
合計	+1988[m ³ /4週](合計):+1219[m ³ /週]	

(合計):+1988[m³/4週](合計):+1219[m³/週]

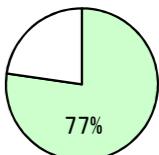
④廃棄物発生量

廃スラッジ



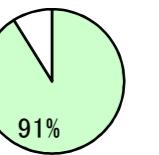
保管量:421/700[m³]※3

使用済ベッセル



保管量:4923/6372体※1

濃縮廃液



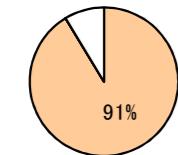
保管量:約9391/10300[m³]※3

水位計0%以上の保管量:9291[m³]

タンク底部～水位計0%の保管量(DS):約100[m³]

③5, 6号機タンク貯蔵量

タンク総容量

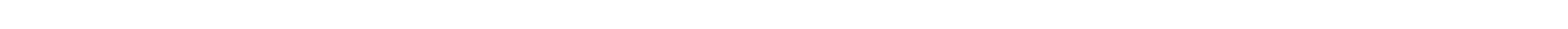
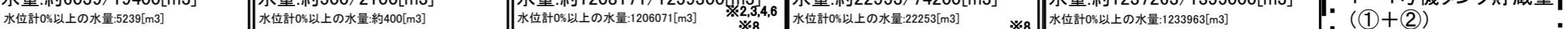
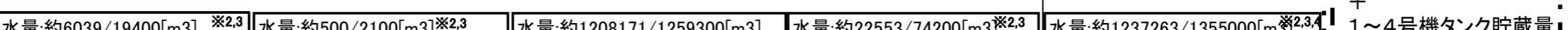
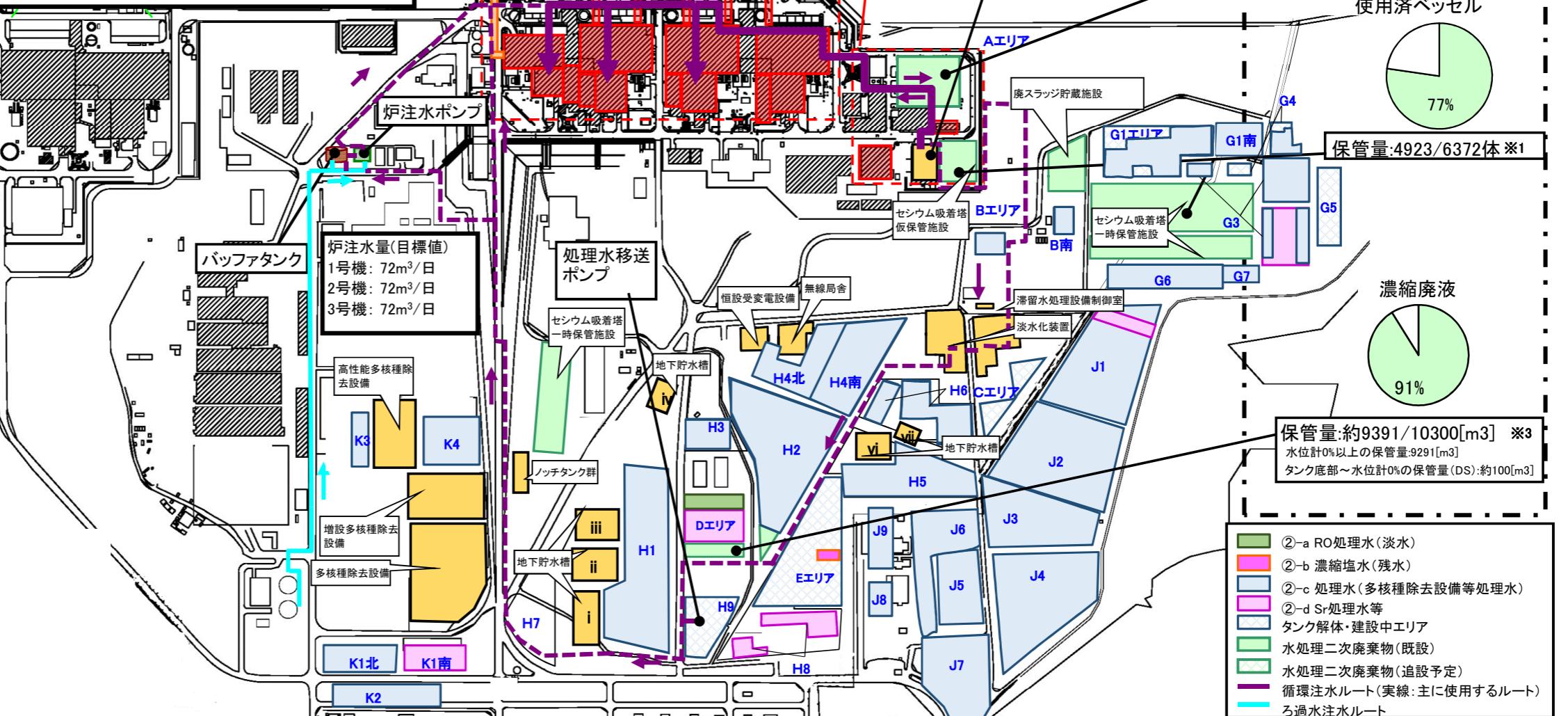


水量:約1253522/1372400[m³]※2,3

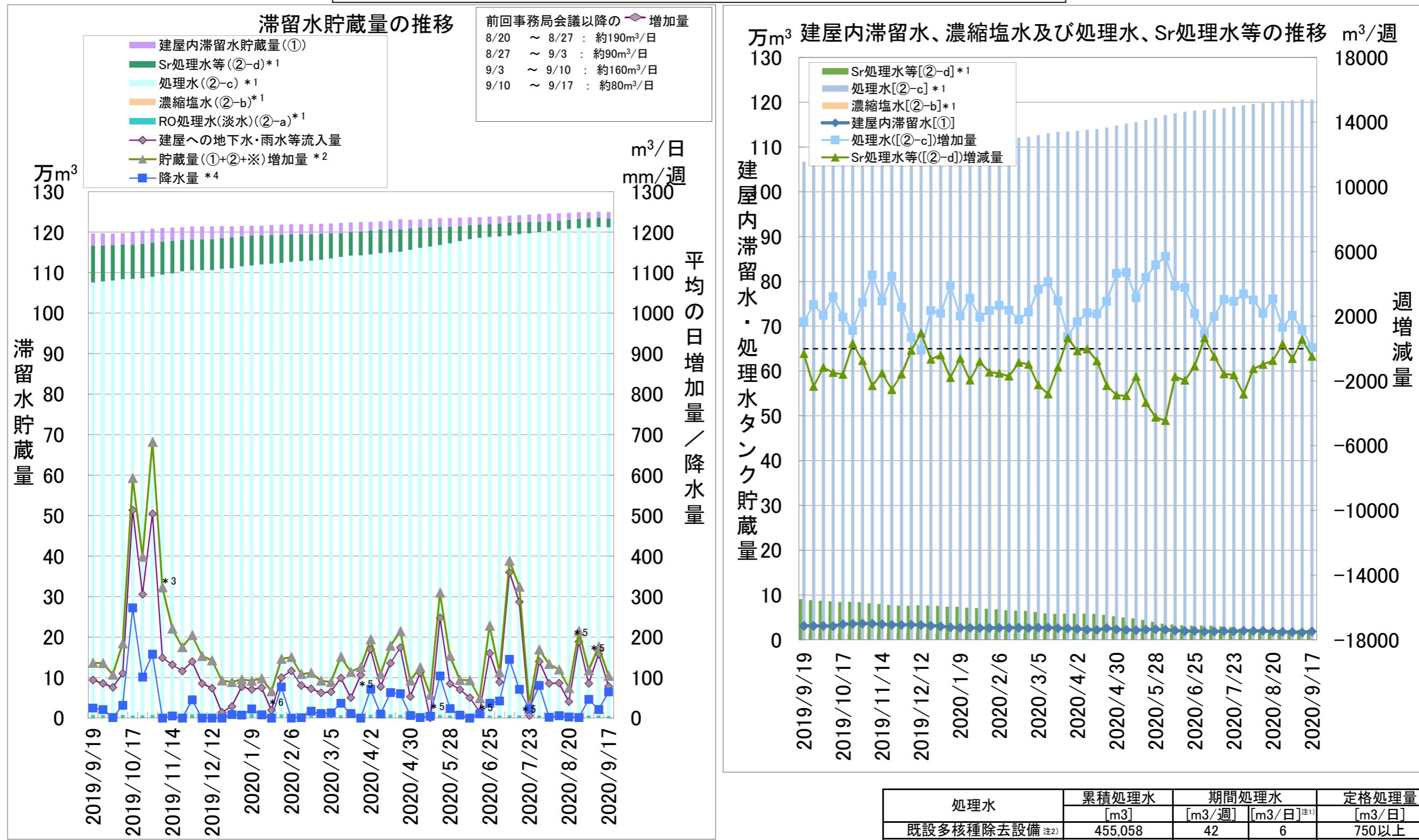
+2842[m³/4週]/+5400[m³/4週]

-2403[m³/週]/-2500[m³/週]

タンク貯蔵量合計(②+③)



滞留水の貯蔵状況の推移



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1~4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))
 ②: 1~4号機タンク貯蔵量([②-a]RO処理水(淡水)+[②-b]濃縮塩水+[②-c]処理水+[②-d]Sr処理水等)]

*: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

*1: 水位計0%以上の水量

*2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)
 「(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)

*3: 废炉作業に伴う建屋への移送により貯蔵量が増加。

(移送量の主な内訳は①地下水ドレンRO濃縮水をタービン建屋へ移送:約80m³/日、②ウェル・地下水ドレンからの移送:約50m³/日、③5/6号SPTからプロセス主建屋へ移送:20m³/日、他)

*4: 2018/12/13より浪江地点の降水点から1構内の変更。

*5: 建屋内滞留水の水位低下の影響で、評価上、建屋への地下水・雨水等流入量が一時的に変動したものと推定。(2020/3/18-2020/5/7~14, 2020/6/11~18, 2020/7/16~23, 2020/8/20~27, 2020/9/3~10)

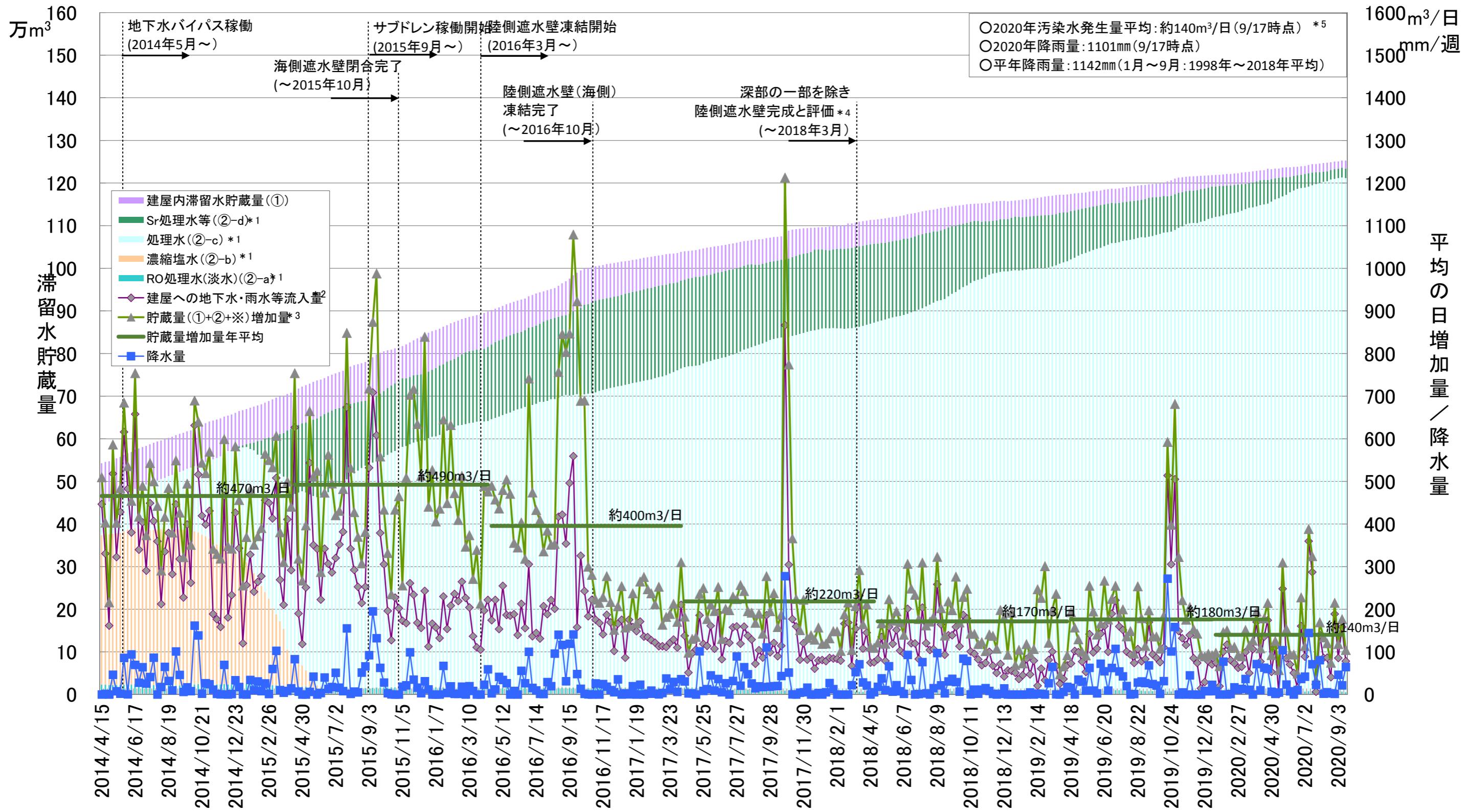
*6: 2019/1/16~23集計分より4号機R/B水位低下に伴いR/B滞留水へ流出するS/C内系統水量について、廃炉作業に伴い発生する移送量に加え、建屋への地下水・雨水等流入量へ反映

処理水	累積処理水	期間処理水	定格処理量
	[m ³]	[m ³ /週]	[m ³ /日] ^{注1)}
既設多核種除去設備 ^{注2)}	455,058	42	6
増設多核種除去設備 ^{注2)}	681,943	31	4
高性能多核種除去設備	102,556	0	0
高性能検証試験装置	1,128	0	50
Sr処理水等	期間処理水		定格処理量
	[m ³ /週]	[m ³ /日] ^{注1)}	[m ³ /日]
セシウム吸着装置			600
第二セシウム吸着装置	0	0	1200
第三セシウム吸着装置			600

注1) 週間の平均値

注2) 既設・増設多核種除去設備処理水の一部は、残水があるRO濃縮塩水タンクに移送し、Sr処理水等として貯蔵

滞留水の貯蔵状況の推移(長期グラフ)



①:建屋内滞留水貯蔵量(1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))

②:1～4号機タンク貯蔵量

([②-aRO処理水(淡水)]+[②-b濃縮塩水]+[②-c処理水]+[②-dSr処理水等])

*:タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

*1:水位計0%以上の水量

*2:貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)
[(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)]

*3:2018/12/6まで浪江地点の降水量を使用していたが、2018/12/13より1F構内の降水量に変更

*4:深部未凍結箇所3箇所については、2018年9月までに凍結完了

*5:福島第一原子力発電所の廃炉に向けた中長期ロードマップ上、平均的な降雨に対して、2020年内に汚染水発生量を150m³/日程度に抑制することを目標としている。